

北上市ごみ減量市民会議ニュース

～第1回ごみ減量市民会議検討委員会が開催されましたの巻～

2年間にわたり、市内のごみ減量に関する関係団体で協議してきたごみ減量市民会議が、検討委員会を開催し、「市民による、市民のためのごみ減量」に向け、新たな一歩を踏み出しました。

＜ごみ減量市民会議とは？～ごみ減量市民会議の目的～＞

- 市民生活がより向上するように、市民自らが、ごみ減量に対しての市民の行動を考える。
→市民だけではできないことについては、企業、行政に対して提言する。
- 市民がごみ減量により、よりよい環境をつくるための実践活動を行う。

＜今年度のごみ減量市民会議の進め方とは？＞

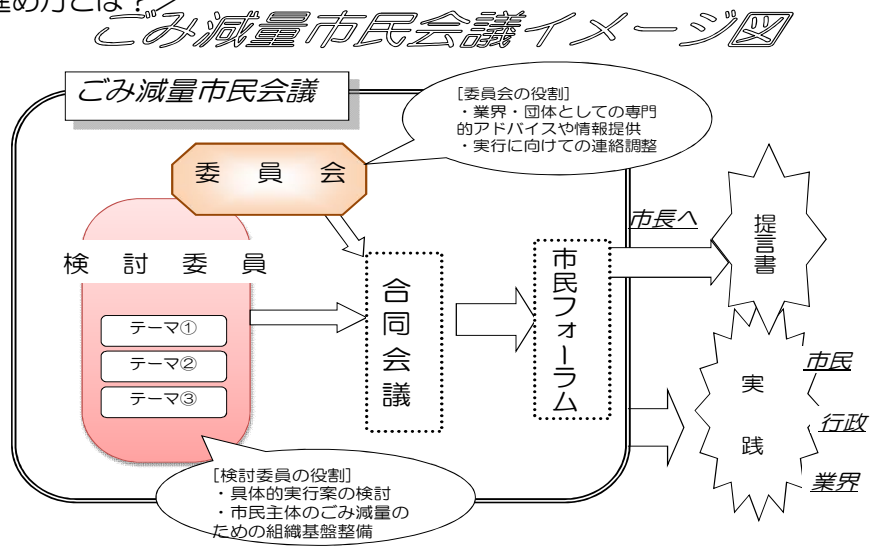
ゴミ減量市民会議は、委員会と検討委員会に分かれ、それぞれの長所を生かし、市内全体でのごみ減量への活動、意識啓発を行っていきます。

○検討委員会の役割

市民が行うごみ減量活動の検討と実践へむけた取り組み

○委員会の役割

専門的見地からのアドバイスと関係機関への協力依頼



第1回検討委員会は、9月12日18:30から北上市情報センターセミナールームで32名の参加の元で開催されました。今回は、初めての開催ということで、運営に対しての様々な意見交換のもと、検討が進められました。

＜当日のスケジュール＞

- I. 開会
- II. 今年度の進め方・今後のスケジュールの説明
- III. のぞましい「ごみ減量市民会議」について共有する。
- IV. 北上市の現状を知る
『北上市のごみ問題』を見てみよう
- V. グループディスカッション
 - 1 『ごみ有料化に伴う、予想される様々な問題を考える』
 - 2 『課題の共有』
 - 3 『課題の整理』
 - 4 『ごみ減量の具体的なアイデアを検討する』
- VI. 成果発表 作成した成果をグループごとに発表

始めのセッションは市民会議に求めることを参加者で出し合い、この会議がどのような希望を持って集まっているのかを全員で共有しました。

ごみの減量に対して、その方法論を知りたい方、より多くの市民の方にごみ減量の意識を持ってもらいたい、ごみ減量を進めるための仕組みを構築したいなど、参加された方のごみ減量に対しての意識はもろろ高く、さまざまな期待が寄せられました。

〈どんな市民会議にしたいですか？市民会議にのぞむことは？〉 ※全員の意見

- ・せっかく得たものが「宝」が「ゴミ」かは個人の価値、皆様の意見も宝にしたい
- ・ごみ減量の勉強にきました。知識を広めていきたい
- ・ごみ減量の具体的な方策、環境問題についての学習
- ・むだなゴミを出さない社会を作る。いいゴミ・悪いゴミを区別できるようにする
- ・ごみ減量をするためには有料化ではなく市民の意思で分別の徹底するようにする。生ゴミの肥料化をしてほしい
- ・ごみ減量は各家族での意識にかかわるものと思う、意識のこうよう啓発を高める方策
- ・「何をどうするのか」ではなく、「何が問題か」を意識する
- ・どうやったらごみ減量ができますか、皆様と話し合い交流を通してその方法を具体的に教えてもらいたいです。
- ・個人のゴミ減量意識を持ってもらうためには、どのようなことがあるのか
- ・生ゴミを少しでも減量したい。またその方法を(色々な)知りたい
- ・分別の徹底
- ・個別収集、自己責任
- ・今日はどんなことが行われるのかを勉強しにきた
- ・ゴミ分別の啓もう、ゴミの減量のシステム化
- ・はじめての参加です。本日は会議の内容を確認したいと思います
- ・手伝いたい
- ・プラ、燃えるものと資源ゴミ、どこで分別するのか
- ・何を目標とするのかわからないが参加しました
- ・ゴミ減量のアイディア探し
- ・家庭で出来るゴミ減量について
- ・ごみは資源です、消費経済と生産性の再構築が必要「リサイクル」の徹底
- ・町方より村方の山道に不法投棄が増えている、これを町方でストップできないか
- ・組合長として日常活動しているのがベストで、この場での求めることは別になし、市民の意識向上を求めます
- ・市民の意見を集約する(行政の指導でなく)

北上市のごみ減量を考える上で、もう一つ大きな環境の変化が今年度よりスタートします。「ごみの手数化」です。北上市のごみ問題を検討する上で避けては通れないこの変化に対して、その起こりえる問題を共有し、市民は何ができるのか、何が必要なのかを6つのグループにわかれ、検討しました。

〈ごみ手数料化により、どのような問題が起こると思いますか？〉 ※代表的な意見を抽出

○不法にゴミが捨てられる

●起こる原因

- ・面倒なことやお金がかかることはイヤだということから目先のことしか考えない
- ・ゴミを少なくする事の意識が低い
- ・市民意識が低い
- ・意識が低いまま料金のみ高くすれば捨てたほうが得をするというような不徳な人が増える
- ・ゴミを分別するため手数料かけるから
- ・再利用は時々刻々と変化するので排出者が理解できない
- ・氏名を書くわけではないので
- ・リサイクルの行くえが分らない、規則で資源ゴミの分別をやっている

◎解決策

- ・問題意識を持たせる
- ・何のために有料化にするのかという一人一人の意識を高めていくことが必要、価値観の転換
- ・不法投棄への罰金などの管理する仕組みも必要なのは
- ・監視員など管理する仕組みも必要
- ・子供の教育としての分別から再利用の流れを理解する
- ・いつでもゴミを捨てれるステーションをつくる

○有料化した直後は減るかもしれないが、金さえだせば問題ないだろうと、すぐに増える

●起こる原因

- ・家庭内での手間と費用とのバランスが取れないので元に戻る
- ・ゴミに対する意識が低く全体(社会)のことを考えていない。
- ・ゴミを出すことに対する問題が薄いとお金さえ払えばと正当化される
- ・ゴミ分別する意識が薄い
- ・払うことにより制約がなくなるため

◎解決策

- ・なぜ有料化にするのか、丁寧説明していく
- ・何が問題なのかをみんなが分かるように繰り返し宣伝する
- ・子供たちにゴミ減量の社会観を根付かせる
- ・商品作りでの廃棄方法を考えた品物に市民として購入したい
- ・袋を大事にゴミも使い切る、リサイクル、バザー
- ・減量についての啓発活動を進める
- ・ゴミを減らすことも大切だが発生源を減らすこと(企業努力レジ袋の有料)
- ・ゴミ減量化取組企業の表彰制度
- ・買い物バックの持ち込み

ごみの手数料化に対しては、大きく2つ、「不法投棄が多くなるのでは」と「結局減量に結びつかないのでは」という問題が検討の中での意見として出されました。

そして、その両方の原因として考えられることが、「ごみ減量に対する意識の低さ」、「リサイクルの方法(分別方法・収集方法・理解)」が抽出されました。

ごみの手数料化により、お金を払いたくない人は捨ててしまい、払ってもよい人は結局何も今とかわらないというのが、有料化により懸念される事項であることが、このことから予想されます。

そして、これをどうしなければならないか、その解決策としては、「市民のごみ減量に対する意識向上」「リサイクルしやすいしくみづくり(ステーションなど)」「行政の取り組み(不法投棄が起こらない仕組み(罰則、監視強化など))」、「企業からの協力(リサイクルの推進、買い物袋などごみを家庭に持たせない努力)」があげられました。

そして、第1回目のごみ減量市民会議では、次回からの部会検討に向け、今後市民会議としてどのようなことができるかの検討を行いました。ごみ有料化の問題においても、「市民ができること」と「市民ではできなく、行政・企業に協力を求めること」が分類され、意見がでてきました。今回は、4つの分類により、どんなごみ減量に関するアイデアがあるかを出し合いました。

	市民ができること	行政・企業にお願いすること
ゴミの元を減らす	<ul style="list-style-type: none"> ・残さないで食べ切る ・食べのものを残さない ・過剰包装をその場で置いてくる ・ゴミを買わない ・賞味期限の近いものから買う(奥から選ばない) ・親子三代での生活を ・レジ袋は使わないでマイバック ・衝動買いをしない ・物を捨てないような買い方を工夫する ・買い物はよく考えて必要なものだけ買う ・修理して物を使う ・物を大切に長く使う ・食生活の見直し ・パッケージ商品を購入しない ・製造元にPRする ・人に贈る物でも、できるだけ簡易包装にか簡易包装でも省く ・古紙、ダンボール等は金になるので婦人会や子供会が収集する ・生ゴミはリサイクルする ・一般ゴミを資源ごみへ ・可燃ゴミを資源ごみへ ・過剰包装を断る ・レジ袋を断る ・住民の意識の格差、市の広報を活用する ・教育(子供)にてゴミ意識を高める ・過剰包装をさせない、しない ・ティッシュ等でもハンカチやタオルを使うようになる ・過剰包装を断る ・紙コップ、紙皿を使わない ・マイバックを利用する 	<ul style="list-style-type: none"> ・レジ袋は有料化にする ・一枚レジ袋を100円で価格にする ・かしい消費者に売り出しで、特売品の買い物のし過ぎ ・ゴミを受け入れる(回収する)PL法みたいな方法をつくる ・店でばら売りを ・トレー、パックを減らしてバラ売り、詰め替えをする ・商品の梱包を簡単にする ・商店側の包装の仕方を工夫 ・過剰包装を減らす ・生ゴミの処理 ・宣伝をあまりしない ・何度も使える瓶などが増えるとよい(牛乳や酒など) ・製造メーカーも包装のアイデアを工夫して包装するものを何か使い道があるようにやってほしい ・業者がゴミを出さない努力をしてもらう ・余分なチラシを出さない ・業者(販売側の工夫)、昔の魚屋さん、やおやさんのような販売の仕方 ・生ゴミ処理への補助 ・包装の簡素化で評価制度 ・マイバックを配る ・簡単包装してもらう ・少量販売 ・過剰サービスにならないように配慮してもらう

	市民ができること	行政・企業にお願いすること
ごみの出し方	<ul style="list-style-type: none"> ・残飯はなるべく土にかえす ・生ゴミは肥料化する ・生ゴミは各自で処理する ・氏名を書いてもらう ・分別の研究 ・分別を徹底する ・生ゴミはたい肥として使う ・資源ゴミ、燃えるゴミ、燃えないゴミの徹底 ・ゴミ袋に名前を書くこと ・ゴミに責任を持つ ・ゴミの収集所でチェックする ・ゴミステーションをきちんと作る ・原型で出さないで裁断して捨てる ・PP類の分別をもっとしっかりやれば少なくなる ・もやす方法を工夫する、各地域で燃やす ・チラシや知らせや広告の裏を利用して、子供の(外国語の)単語用紙、算数練習用紙、家庭メモに再利用後、資源ゴミとして出す ・細かに分別する ・分別の意識向上 ・分別してリサイクルしやすくする ・分別を徹底する ・家庭内に分別袋を設置して徹底する ・ゴミ袋を出す際いつも他の人より小さいものを出す 	<ul style="list-style-type: none"> ・分別をおおまかに ・24時間、365日受け入れOKのゴミステーション ・廃油、生ゴミ等は収集機能をつくる ・ペットボトルとフタを同じ素材とする ・パトロールと啓もうを推進 ・啓もう活動を数多くする ・個々の意識の向上、啓もう活動 ・リサイクル商品を増やす ・教育及び行政手段でゴミ減量意識を高める ・焼却炉をつくる ・監視する ・生ゴミのたい肥化 ・収集回収を増やす ・分別の徹底調査 ・市民教育をする ・生ゴミを交流センターに処理機を置いてまとめる ・デパート、スーパーの休日を多くする ・ゴミのゆくへを市民に説明 ・アパート代金にゴミ処理迷惑料を上乘せ ・意識向上の維持のため教育 ・アパートのゴミ出しは貸主が責任 ・子供のころからゴミの認識強化 ・燃やすことを認める

次回のごみ減量市民会議では、このような様々な意見から4つの部会をつくり、実際にそれぞれのテーマで「市民は何ができるのか？」検討、実践していきたいと思えます。